

報 告



第17回医学情報サービス研究大会(札幌大会)参加記

森川 治美

2000年7月22日(土)～23日(日)に札幌医科大学臨床教育研究棟大講堂を舞台に、第17回医学情報サービス研究大会(札幌大会)が開催されました。

ラベンダーの花香を参加の証にという細やかな心使いに始まったこの大会は、北の国というメリットと実行委員長の美貌からか、160名近い参加者があり、大変盛大なものでした。しかし、遠方というデメリット?か、近畿地区からの参加は少なかったようです。

特別講演においては、札幌医科大学の辰巳治之教授より「次世代インターネットのバックグラウンド」と題された、次世代インターネットプロトコルの運用など、流通の未来世界を目にしているような貴重な話が楽しく紹介されました。

一般演題においては、病院図書館関係の発表も多く、興味を引きました。

看護部への個別文献検索指導、患者とその家族への医学情報サービス、病院図書室でのNAC-SISサービス活用、ファイルメーカーProを用いた相互貸借業務、病診連携と病院図書室の役割、看護図書館の現状と課題、北海道看護協会図書室の活動などが紹介されました。これらは、病院図書館を運営している者同士、業務に、サービスに、影響されるところは多く、発表者の、日ごろの業務の中での一歩踏み込んだ努力と実行力に拍手を送りました。

今回は、開会前に「ビギナーズ・セッション」として、大会に始めて参加する方のための時間

が設けられました。仲間づくりを目指したものでしょうか。この情報大会ならではの、とてもよい企画と感じました。臆病になりがちな参加者にきつといい仲間づくりができた事でしょう。

情報サービス大会は、医学関係図書館員に発表の機会を与えるためのものでもあると聞いたことがあります。若手図書館員の発表のチャンスであると共に、病院図書館員と大学図書館員が同一場所に集う唯一の大会であるとも思います。今後もよい大会にしていだきたいと思っています。

会場は、講演、発表にインターネットやパワーポイントによるプレゼンテーションが多く、以前にもまして、コンピュータをフルに活用した環境作りがなされており、さらに大会運営の方々のスムーズな進行に驚きました。

懇親会では、いろいろな北海道料理と、でき立てのアイスクリームをとてもおいしくいただきました。大変多くの参加者数で、満員列車の中にいるようでしたが、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

実行委員長の平さんを始め、実行委員、協力委員の方々、そして地元病院図書館員のネットワークである北海道ライブラリー研究会の方々のお心づかいとご苦勞に心から感謝いたします。

